

会議の概要

会議名	第1回（仮称）堺産業戦略懇話会
開催日時	令和3年9月24日（金）午後3時00分～午後5時00分
開催場所	堺市役所 本館9階 OA研修室（堺市南瓦町3番1号）
開催方式	オンライン開催
出席委員	（出席）北村委員、久保委員、鈴木委員、豊岡委員、西村委員 （欠席）宇佐川委員

議題及び結果の概要

（1）開会

（2）座長の選出

委員の互選により、西村委員が座長に選出

西村座長より、座長が欠けたときの代理として鈴木委員を指名

（3）堺市の産業をとりまく現状について（事務局説明：資料4）

○久保委員

中小企業に関する課題としては、販路開拓や人材不足はさることながら、大きな課題では事業承継、事業継続、事業再構築。その中でデジタル化への対応も出てくる。

○豊岡委員

「製造業の強みを更に強く、サービス業の伸びしろを伸ばす」ためにメリハリある投資を行うとのことだが、製造業を伸ばしても波及効果が市内循環せずに外に出ていく懸念もある。

○西村座長

ものづくりだからサービスは関係ないということではなく、セットで考えていかないと新しい付加価値や高付加価値のモノは出てこない。それらがつながり、お互いにシナジー効果を出して引っ付いていかないとなかなかうまく回らない。

○鈴木委員

堺市としてこれまで強かった製造業といったものを引き続き支えなければならないとい

ったことは当然あるだろうが、今後の発展を考える上では、市内生産額の7割近くを占めるサービス業をきちんと見据えた上での政策が必要。また女性雇用の観点では、サービス産業での可能性がすごく高くなるので、サービス産業をきちんとみていくことが今後重要になる。

○西村座長

堺市は低・未利用地が少ないことを考えると、製造業の大きな工場を誘導してくるよりは、もう少し手軽にできるサービス産業に少し重きを置いていくことがあってもよいかもしれない。

(4) (仮称) 堺産業戦略策定について (事務局説明：資料5、6)

■コンセプトについて (■は資料5の項目による)

○西村座長

IMPACT の“C”については、Carbon-neutral (脱炭素) を充てているが、それはたくさんある持続可能性やダイバーシティの問題の中の one of them だと思う。例えば脱炭素も SDGs も含めて、サステナブルブランドのようなものも含めて考えて、Common Value (共通価値) というのはどうか。他では、マイケル・ポーターが提唱した Creative Shared Value (CSV: 共通価値の創造) といったものもよいかもしれない。

○北村委員

堺産業戦略というシンプルな日本語できっちり書かれており、そこに SAKAI IMPACT Strategy という英語での名称も添えられており、熱い思いが込められていると感じる。“C”については、確かにすごく具体的な球が来たという印象。Collaborate (協働) といった言葉も考えられる。“impact”の語源はラテン語の“impingere (インパンジェル)”からきており、「中身をギョと詰めていく」という意味もあるようであり、市側の思いと志、アクションに向けてのコミットメントがギョと詰まったという意味では非常に上手く名づけられており、伝わっていくのではないかという印象を持った。インパクトという言葉は、今の時代をうまくとらまえて伝える力を持つ言葉かなと思う。

○鈴木委員

産業政策というのはどこの市でも同じようなことが言える中で、その中でも堺ならではのことを考えていくと、やはり地域経済を守りながらイノベーション創出していくという

ころが堺市らしいところになっていくのだろうと感じた。

○豊岡委員

“I”として、イノベーションが強調されているということは非常に重要なことだと思っている。また“T”、Trigger（トリガー）については、地域経済活性化を引き起こすということで、行政としてどのようにこの引き金を引くのかは考えていく必要がある。産学連携が色んな分野で広がってきている中、大学をはじめ、地域にある色んな知的資源を市としてはどんどん活用するようなことを考えていただければと思う。

○久保委員

「インパクトある堺の産業が未来を切り拓く」というメッセージについては、「堺の未来のために、インパクトある堺の産業を育てる」などちょっと順番が違ってよいかなどは思います。また、イノベーションというのは、やや新しい産業に特化しているような印象があるが、すでにある堺の既存産業の育成や強化というのは、“IMPACT”の頭文字にもあまりないが、既存産業についてはどうなのかということは、もう少し含めてもよいのでは。

■中期ビジョン、目標実現へのアプローチについて

○西村座長

「重層化」という言葉は、層を積み重ねていく、レイヤーを作っていくイメージがあり、どちらかというと垂直的な構造をイメージしてしまう。今の時代は、水平分業の方が主流になっているので、水平的に繋がっていく、それも業界を超えて繋がっていくという時代にある中で、「重層化する」という言葉が独り歩きして、違った取り方をされないか少し気になる。

○鈴木委員

中期ビジョンとして、今5つのことが並列に並んでいるが、「重層化する地域産業」というのがコアで、これに他のものが全部織り込まれていっている感じなのかなという印象を受けた。重層化する地域産業というのは、堺市の歴史に裏打ちされた産業が、イノベーションや、他の産業と繋がるなりして、全体的にDXを進めてやっていく状態を仮に一つのあり方としてイメージするならば、この「重層化する地域産業」というのがより具体的なイメージを持って色んな人に伝わるのではないかと思う。今は皆様が「重層化する地域産業」のところを、言葉で一生懸命説明されることでだいぶ伝わっていると思うが、見せ方・デザインを少し変えることによって、より伝えたいことが明確に

なるのではないかと思う。

○北村委員

「重層化する」というものがキーとなる概念なのであれば、1 つめの中期目標が、2 つめから5 つめの掛け合わせでよりパワフルに展開していけるのではないかという可能性を直感した。それは垂直的なことではなく、何か横と横で繋がって形作っていく、自分たちも関わることによってどんどん変わっていくなど、そうした印象で受け止めた。

○久保委員

これからの時代の5年、10年の産業振興を考える上では、災害時とか、何か危機的な状況のときの企業連携、行政と企業との取り組みなど、地域社会との関係についても、どこかに文字だけでも入れた方がいいような気がする。

○豊岡委員

市の産業振興、経済のあり方とか考えると、やはり横の繋がりというのが非常に大切になってくると感じる。今オープンイノベーションなど言われているが、横との繋がりの中で新しいものを作っていくというような動きもある。そういうことが堺で行われるような環境作りというのができたらいいと思う。また、市内企業の実態としては、DX化にしても、出来るところと出来ないところの差が二極化していくのではないかと感じるので、やはり色々行政のサポートがないとなかなか難しいと感じる。

(5) 閉会